

2023年10月13日（金）
第12回JSTワークショップ 公正な研究活動の推進
ー映像教材を活用した研究倫理教育を体験し
実践方法を考えるー

『モデル講義』

東京工業大学 眞嶋俊造

モデル講義の前提：教員対象

- ① 受講者:教員（研究室主宰者）
- ② 講義の規模:50名以内（グループワーク可能な人数）
- ③ 講義時間:90分（映像視聴約30分＋講義・グループワーク等60分）
- ④ 使用する映像教材：「倫理の空白Ⅱ」盗用編
【人文・社会科学編】

モデル講義の前提：（計90分）

※大学等で実際に行う場合の時間配分

- ▶ 説明（5分）：ステージおよび選択肢など視聴の際に留意するポイントを説明。
- ▶ 映像視聴（30分）：ステージを意識して視聴する。
- ▶ 分析・検討（10分）：各ステージにおける行動を考える。
- ▶ グループ討議（25分）：各ステージについて議論する。
- ▶ グループからの発表（15分）：各グループの討議内容を1分程度で発表
- ▶ まとめ（5分）

本日のモデル講義のタイムテーブル（計80分）

- ▶ 13:50-14:00 説明（10分）：ステージなど視聴の際に留意するポイントを説明。
- ▶ 14:00-14:10 分析・検討（10分）：川島のアクション等について個人で考える。
- ▶ 14:10-14:35 グループ討議（25分）：川島のアクション等について議論する。
- ▶ 14:35-14:50 グループからの発表（15分）：各グループの討議内容を1～2分で発表
- ▶ 14:50-14:55 まとめ（5分）
- ▶ 14:55-15:10 モデル講義の解説・質疑応答（15分）

モデル講義開始

説明

- ▶ 映像教材：「倫理の空白Ⅱ」盗用編 【人文・社会科学編】を視聴し、研究室主宰者である川島教授が取るべき行動、とるべきではない行動について検討する。
- ▶ 個人ワーク（10分）とグループワーク（25分）を行います。

A

講義ワークの進め方

映像教材「倫理の空白Ⅱ」盗用編【人文・社会科学編】を5つのステージに分け、
**研究室主催者の川島教授が、IIからIVの各ステージにおいてどのようなことを
すべきだったのか、すべきでなかったのかについて、その理由を含めて検討してください。**

本日の講義では、映像教材の場면을5つのステージに分けて検討をすすめます。
ステージについては、以下を参照してください。

ステージI	20歳	学部生	0:00-3:20	コピペの常習
ステージII	22歳	大学4年生	3:20-10:11	アイディアの盗用
ステージIII	23歳	修士院生	10:11-17:57	偽りの”文献参照”、ポスドク加藤の「思い」
ステージIV	25歳	博士院生	17:57-23:58	データの盗用、加藤との再会
ステージV	35歳	准教授	23:58-26:22	不正の露呈

A

モデル講義グループ討議

取り組み時間：25分
(次ページと合わせて)

グループ討議(1):【IIからIVの各ステージ】において、川島教授が、阿部本人／阿部以外のステークホルダーに対し、具体的にどのようなアクションを取るべきであったか、または取るべきでなかったかを検討してください。
また、そのように考えた理由(そのアクションによってもたらされることが予測される効果や結果なども踏まえ)についても()内に記入してください。

阿部 ステージ	阿部本人に対して ※観点：個人への研究倫理教育	阿部以外のステークホルダーに対して ※観点：研究室運営全体
【ステージII】 大学4年生 3:20-10:11	〇〇というアクションを取るべきであった（なぜならば・・・だから） 〇〇というアクションを取るべきでなかった（なぜならば・・・だから）	〇〇（誰）に対して〇〇というアクションを取るべきであった（なぜならば・・・だから） 〇〇（誰）に対して〇〇というアクションを取るべきでなかった（なぜならば・・・だから）
【ステージIII】 修士院生 10:11-17:57		
【ステージIV】 博士院生 17:57-23:58		

A

モデル講義グループ討議

取り組み時間：25分
(前ページと合わせて)

グループ討議(2)：（時間に余裕があれば検討してください）

指導教員、また部局ないし全学的な視座より研究不正の**予防策と再発防止策**について検討してください。
学部生（初年次・卒論執筆前）、修士学生、博士学生それぞれに対する**具体的なポリシーと行動案**を作成してください。

映像視聴（約30分）
（メモを取っても大丈夫です。）

研究室主催者の川島教授が、IIからIVの各ステージにおいて、阿部や他の関係者にどのようなことをすべきだったのか、すべきでなかったのかについて、その理由を含めて考えながら視聴してください。

ステージII	22歳	大学4年生	3:20-10:11
ステージIII	23歳	修士院生	10:11-17:57
ステージIV	25歳	博士院生	17:57-23:58

（年齢と肩書は阿部のもの）

個人ワーク（10分）

- ▶ 研究室主催者の川島教授が、IIからIVの各ステージにおいて、阿部や他の関係者にどのようなことをすべきだったのか、すべきでなかったのかについて、その理由を含めて分析・検討してください。
- ▶ 後でグループワークを行うために、メモを作成してください。

グループワーク（25分）

- ▶ 研究室主催者の川島教授が、IIからIVの各ステージにおいて、阿部や他の関係者にどのようなことをすべきだったのか、すべきでなかったのかについて、その理由を含めて分析・検討してください。
- ▶ すべき・すべきではない行為は必ずも一つとは限りません。
- ▶ 他の関係者には人だけではなく、部局・部署や組織・機関も含まれます。

グループワーク（25分）（続き）

- ▶ 一番濃い色の服を着ている人が司会、一番薄い色の服を着ている人が記録係をしてください。
- ▶ 司会も記録係も他のメンバーと同じように発言をしてください。
- ▶ 話し合った記録をもとに、グループワーク後に1分程度の発表をお願いいたします。
- ▶ ボックスに入れる行動は1つに絞る必要はありません。

→ブレイクアウトルームへ

グループからの発表（15分）

- ▶ 各グループの討議内容を1分程度で発表してください。

まとめ（5分）

- ▶ 研究不正で困るのは不正を行った学生だけではなく、指導教員である自分や自分の所属する研究室、またその構成員にとどまらず、所属する部局や機関も困ることになるかもしれません。
- ▶ 研究不正が起きて困るのはまさに自分自身であり、また皆であるといえるでしょう。
- ▶ 健全な研究環境の構築・整備・維持を。

モデル講義の解説・質疑応答（15分）

- ▶ 本モデル講義は、「先生方は研究倫理をよくお知りで実践されているので釈迦に説法とは思いますが、もしご自身が指導する学生が研究不正を行ったらどのようなことになるでしょうか？」という問いに発し、よりよい研究環境の構築と維持の重要性と必要性を意識してもらい、そのための取り組みの実践を動機づけることを意図した。

モデル講義の解説・質疑応答（15分） （続き）：他にどう使うか

- ▶ 本モデル講義は教員（研究室主宰者）向けに組んだが、院生・若手研究者向け、また学部生向けにも使うことができる。
- ▶ 院生・若手研究者向けには、川島教授ではなく、ステージIII-IVにおいてポスドク・助教の加藤がどのような行動をすべきか・すべきでないかを考える。
- ▶ 学部生には啓発をメインとした視聴。